

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2012/12/28	2013/5/31	2013/6/14	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	10,395.18	13,774.54	12,686.52	15,942.60	2013/5/23	8,135.79	2011/11/25
NYダウ	ドル	12,938.11	15,115.57	15,070.18	15,542.40	2013/5/22	9,614.32	2010/7/2
円/ドル	円	85.96	100.45	94.31	103.74	2013/5/22	75.35	2011/10/31

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

連日、乱高下を繰り返す展開。

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が▲191.01円(▲1.48%)、TOPIXが▲0.5ポイント(▲0.05%)と小幅下落に止まったものの、日々、日経平均の日中の値幅が250円を超えるなど、乱高下を繰り返す展開となりました。業種別(東証33業種)にみると、電気・ガス業、空運業、建設業など17業種が上昇する一方、不動産業、その他金融業、非鉄金属など16業種が下落しました。週明け10日の日本株市場は、先々週末、米国雇用統計が市場予想を上回ったことを受けて米国株市場が上昇したことや98円台まで円安ドル高が進んだことなどから、大きく上昇して始まり、日経平均は13,500円台を回復しました。しかしその後週末にかけては、①日銀が金融政策決定会合で新たな政策を打ち出さなかったことを受けて円高ドル安が急速に進行したこと、②FOMC(米連邦公開市場委員会)を控えQE3(量的緩和第3弾)早期縮小への警戒感が払拭されない中、米国株市場が軟調に推移したこと、③14日に発表された成長戦略の最終版が5日に発表された素案とほとんど変わらなかったことを受けて、成長戦略に対する期待が後退したことなどから、連日、乱高下を繰り返しつつ、下値を模索する展開となりました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	前回
6月17日	Mon	日本	第三次産業活動指数(前月比)	4月 -0.9%
		米国	ニューヨーク連銀製造業景況指数	6月 -1.43
		国際	G8(主要8カ国)首脳会議(北アイルランド、18日まで)	
6月18日	Tue	米国	CPI(消費者物価指数)(除食品&エネルギー/前年比)	5月 1.7%
			住宅着工件数	5月 853千件
			FOMC(米連邦公開市場委員会)19日まで	
6月19日	Wed	日本	通関ベース貿易収支	5月 -8819億円
6月20日	Thu	米国	フィラデルフィア連銀製造業景況指数	6月 -5.2
			景気先行指標総合指数	5月 0.6%
		中国	HSBC製造業PMI	6月 49.2
		欧州	ユーロ圏・EU(欧州連合)財務相会合(ルクセンブルク、21日まで)	

決算発表予定 他	米国	決算発表 : 6/18 アドビ・システムズ 6/19 フェデックス、マイクロン・テクノロジー 6/20 オラクル
----------	----	---

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

~ FOMC後に一旦反発が基本観 ~

今週の日本株市場は、東証一部の売買代金が減少傾向にある中、日経平均ボラティリティ・インデックスは41.59%と高まりしていることから、週前半は米国の金融政策に対する思惑に左右される形で、12,000円後半を中心に値幅の大きい展開を予想しています。ただ、先週末現在で騰落レシオ(25日)が69.6%、25日移動平均乖離が▲9.7%とテクニカル的には売られ過ぎの水準にあるため、ここからの下値は限定的であり、18~19日に開催されるFOMCにおいては、早期のQE3縮小に対する市場参加者の懸念が払拭される可能性は高いとみていることから、一旦は13,000円台に反発することを基本観としています。経済指標では、米国で18日に発表されるCPI、住宅着工件数、20日のフィラデルフィア連銀製造業景況指数、中国では20日のHSBC製造業PMI、日本では19日の通関ベース貿易収支が重要と考えています。